

さるの海岸見物

(島根県)

むかし、ある山の中に、さるが住んでいました。

あるとき、さるは、山にばかりいるのがつまらなくなって、いちど海辺へ行ってみよう
と思つて出かけていきました。

海辺まで来ると、枝ぶりのよい松の木があつたので、さるは、そこに登つてあたりをながめました。すると、とても気持ちよかったので、

「海辺いうのはいいもんだ

風はふうふう吹いている

波はどんどと打っている」

といいました。すると木の下で、だれかが「ふーん」と答えました。下を見てもだれもいません。さるは、

(おかしいなあ。気のせいかな) と思いました。そしてまた、

「海辺いうのはいいもんだ

風はふうふう吹いている

波はどんどと打っている」

といいました。すると、また下で、だれかが「ふーん」と答えました。

(おかしいなあ。すがたも見えないのに、だれがあんなふうに戻事をするのだらう) と思つて、さるは木から下りて、あたりを見まわしました。けれども、やはりだれもいません。

ふと気がつくと、目の前に石がいくつか積み重なっていました。その石をちよこつと持ちあげてみると、石の下にかに一匹いました。

「返事したのはこのかにだな。いちいち返事なんかするな」

さるはそういって、石でかにつぶしてしまいました。そして、また木に登って、

「海辺いうのはいいもんだ

風はぶうぶう吹いている

波はどんどと打っている」

といいました。こんどは返事がありません。なんとなくつまらなくて、

「つまらないなあ」といつてみましたが、それでも返事はありません。さっき返事をしたのは、やっぱりあのかにだったのです。

さるはさびしくなりました。そこで、木から下りると、つぶしたかにをだんごに丸めて、生きているかのように、そつと石のあいだに置きおきました。そして、また木に登って、

「海辺いうのはいいもんだ

風はぶうぶう吹いている

波はどんどと打っている」

といいました。すると、木の下で、「ふーん」と、返事がありました。

返事をしてもらうと、さるは、嬉うれしくて、夜になるまでそこにいました。

「ものをいっても、返事をする者ものがいらないとつまらない。また来るから、そのときも返事をしておくれ」

さるは素晴らしいおいて、山へ帰っていったということです。